

平成29年度 第2回江別市行政評価外部評価委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成29年9月4日（月） 15時00分から17時00分

場 所：江別市民会館 31号室

出席委員：井上宏子委員長、千里政文副委員長、武岡明子委員、山下善隆委員、
小原克嘉委員、小野寺さゆみ委員（計6名）

欠席委員：菅原涼子委員（計1名）

事務局：企画政策部北川部長、企画政策部福島次長、
政策推進課中島参事、天明屋主査、坪松主査、毛利主査、山口主事

傍聴者：1名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）えべつ未来戦略における戦略1及び戦略4構成事業の事業概要説明について

○井上委員長

前回委員会において、事務局より説明のあった6事業について、各委員から指摘事項があった。その指摘事項を踏まえて、事務局で事務事業評価表を修正しておりますので、修正内容等を事務局より説明願う。

【事務局から資料5修正版を説明】

・資料5【修正版】 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）

【質疑】

○山下委員

前回指摘の点を修正・見直しをした形跡が見てとれるが、不十分な点がある。「協働を知ってもらう啓発事業」の「対象指標」に小学生・中学生と記載があるが、「成果指標」が「啓発を受けた小学生・中学生」になっており、「対象指標」が「成果指標」ということはあるのか。

○事務局

「成果指標」が「活動指標」ではないかと言われたとおりである。今までの江別市の行政評価を行う際に、「成果指標」として適切なものが見つからない場合、「代替指標」として「活動指標」を成果として進めてきた経緯がある。今後「代替指標」については、成果が見えるような指標に変えていく取組が必要であると考えている。

○井上委員長

今回は短期間での修正だったので、指標として練る時間が必要だったかと思う。指摘があったことと併せて、もう一度指標が妥当なのか事務局でも検討する時間をとってもらいたい。

山下委員から指摘のあった「協働を知ってもらおう啓発事業」では、「手段」において「委託」とあるが、学校教育関係の企業なのか個人なのか、どこに「委託」したのかを分かるようにしてほしい。

また、「意図」に「子どもたちに浸透している」とあるが、「意図」とはどういう状態にしたいのかを記載するので「している」と断定するのはおかしい。未来志向的に「浸透される」となるのではないか。他事業についても、断定している箇所は見直してほしい。

○山下委員

行政評価のシートを作ることが目的となつてはいけない。えべつ未来戦略が浸透し、成果を出し、推進することが目的であり、行政評価はあくまでもその「手段」だということ認識してほしい。

○井上委員長

細かい部分については、他にも修正する部分はあるかと思うが、残りの事業があるので、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（１）を説明】

・資料５【修正版】 えべつ未来戦略 戦略１・４ 事務事業評価表（平成２８年度実績）（Ｐ１３～Ｐ１４）

事務局から議事（１）のうち「大学連携学生地域活動支援事業」を説明

【質疑】

○小野寺委員

担当課評価（３）「成果動向及び原因分析」に「補助額を交付できていることから、計画どおりに成果は上がっている」とあるが、補助金を分配すれば事業が成功していると考えているように感じられる。

また、担当課評価（４）「成果向上余地」では「事業の質の向上につながる可能性もあり」とあり、担当課評価（５）「効率性」でも「補助金を交付する事業」とあるが、補助金の交付は手段であり、意図や目的は質の高い事業をすることではないのか。

限られた予算でプロジェクトが向上したり、それを応援することで市民に還元していくことが目的だと表現が違うように思う。

○事務局

補助事業の補助額は予算で決定しており金額は決まっているが、多数の申請が出れば、より高い質の事業を採択することができ、質が向上するのではないかということである。

また、学生の良いアイデアがあっても予算がなく取組が出来ないということがないように、良い事業については資金面から支えていくということが事業の意図である。

補助金を交付することが目的のような記載が一部あるのでその部分は指摘通りと考えている。

○井上委員長

読みとり方によっては小野寺委員の指摘どおりである。補助金を出せば申請が増加するということが質の向上につながるのか、補助金が少なくても活性化してくれる学生の活動もあるのではないかと、本来の補助政策的な補助はどういう意図で行っているのかが、理由根拠になるのではないかと。

○山下委員

この事業だけではないが、補助事業本数や講座数が多ければ良いのか。事務局の説明で「良い事業を支える」とあったが、どういうものが「良い事業」なのか、その部分を記載してほしい。その「良い」部分を「成果指標」にもってきてほしい。

「意図」に「地域住民とのふれあい」・「まちづくりに関する取組」とあるがこれが成果ではないのか。「ふれあい」がどれだけもたらされたのか、参画された方がどれくらいいたのか、「まちづくりに関する取組」がどれだけなされてどれだけの意見が出てきたのかに着目して成果にするべきではないか。この事業は「補助事業本数」が上げれば良いとなりかねない。

○武岡委員

「成果指標」をどのように設定するか大きく関係するが、先ほど「代替指標」の説明があったが、それを許してしまっていることに元凶があるのではないかと。

戦略1については総合計画策定時に、「協働によるまちづくりが進んでいる市民割合」など達成度を計る指標が具体的に掲げられている。しかし、それを「成果指標」に使用している事業が一つもない。総合計画で決定しているのになぜ使わないのか。

「代替指標」を許容して、平成26年度に設定した指標は比較をするために変えないようにしている。所管課としても考えずに今までのものを踏襲してやっていくようになってしまっている。この事業では「補助事業本数」を「成果指標」に掲げているので、担当課評価(3)「成果動向及び原因分析」に「予算枠とほぼ同額の補助額を交付できている」との記載になってしまっている。今後は「成果指標」の設定を最初にしっかり決めていく必要があるのではないかと。

質問だが、資料の修正版の赤字部分は誰が修正したのか。所管課なのか事務局なのか。

○事務局

赤字部分は協議して所管課で修正している。

補助事業の「代替指標」を使用している事業は、「成果指標」の代わりになるものが何かないか、かつ業務取得できるものを検討して、どうしてもない場合にやむを得ず認めるといことで平成26年度に整理を行った。「協働によるまちづくりが行われる」ということの成果を何をもって測るのかを所管課で検討している。アンケートではえべつ未来戦略で「まちづくりが進んでいると思う市民割合」が出ているが、上位の概念での指標は取っている。事務事業については、「成果指標」が業務取得でき

る事業については「代替指標」ではなく、「成果指標」を設定していく。

○井上委員長

この事業について所管課で「補助金額」を「活動指標」にするよりも、「補助金申請件数」にした方が良いのではという意見は出ないのか。

また、山下委員が指摘した「地域住民の触れ合いやまちづくりに関する取組」と記載しているならば、それを「成果指標」に今年度記載しても良いのではないかという柔軟な発想が出てきてほしい。決められたものを毎年度同じ数字を追いかけることによって評価するという見方もあるが、気付きのある年度は例外としてその気付きを生かすと良いのではないか。

○事務局

井上委員長の指摘のとおり、所管課との打ち合わせの中では「補助金申請件数」を入れるべきだったのではないかという意見もあった。指標については外部評価委員会の結果、または前回説明させていただいたとおり総合計画の中間見直しを行っているので、その中で指標の取り方を一度整理したい。

○井上委員長

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（1）を説明】

・資料5【修正版】 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）（P15～P16）

事務局から議事（1）のうち「学生地域定着自治体連携事業」を説明

【質疑】

○山下委員

この事業名にあるように「地域定着」の事業だが、「意図」に「学生の地域への就職、定住といった地域定着の推進を目的」とあり、「目的」の後に「地域活動に参加する学生」と記載がある。「地域活動」に参加する学生が増加すれば就職・定住にもつながるが、一番の目的は就職・定住するということではないか。それならば「成果指標」は「学生のうち江別市内に就職あるいは定住した割合または人数」になるのではないか。そういう考えをした上で、事務局の説明とつながると思う。費用などの面で難しいとなった場合、「地域活動等に参加した学生数」を今回は「成果指標」とするというような考え方を一貫して行うことが「代替指標」ではないか。「成果指標」に記載している「市内活動等に参加した延べ学生数」は一見して「成果指標」らしいが「代替指標」なのかと思うので、その部分を常々意識をして指標の設定を考えてほしい。この評価表を作成する時だけではなく、日常的にこの評価を気にしていなければ意味がない。成果を上げるために何をしようか考えて取り組んでほしい。

○事務局

山下委員が指摘したとおりだと所管課も考えており、この事業は今年度のデータはまだないが、来年度以降はアンケートをとり、定着した人数を計れるようにすること

を考えている。

○小野寺委員

事業費が1千万円以上かかっているが、読んだだけでは何を行っているかが伝わってこない。「手段」に「活動経費の支援を行う」とあるが、何の目的でどこに対して支援をしているかも分からない。「事業内容（主なもの）」にも「ハロウィンフェスティバル in 野幌、北海鳴子まつり等」とあるが費用はお祭り自体に出しているのか学生団体に出しているかが分からないので分かりやすく記載してほしい。

担当課評価（3）「成果動向及び原因分析」では「地域活動等に延べ482人の学生が参加し、一定の成果が出ている」とあるが、事業の目的は地域交流ではなく就職・定着ではないのか。

また、担当課評価（4）「成果向上余地」に「マッチングの精度が向上」とあるが、誰と誰のマッチングで何のために行って、精度が上がったとはどういうことなのか分からないので書き方を工夫してほしい。担当課評価（5）「効率性」にも「マッチングの効率化」とあるので、この事業においてマッチングをするということは重要なことが分かるが、それがどのようなものなのか記載がないので、その説明も入れていただきたい。

○事務局

この事業に関しては、学生が地域で定住するのに、地域で受け入れられて就職することを「マッチング」と表現しているが、この表現については所管課に戻したいと考える。

費用については「費用内訳（主なもの）」にあるが、「協議会運営費」と、構成している各市町村へ行くための旅費や日当を支給しているため「費用弁償相当」と記載している。この表記についても見直しということで所管課に戻したい。

○井上委員長

「マッチング」という言葉を使っているが、「事業を取り巻く環境変化」に「自治体」・「関係団体」・「企業」など地域にいる方々と連携しているということが具体的にになると「マッチング」がもっと伝わるのではないか。

学生が主催してイベントを行うのではなく、商工会議所や企業が地域の中のイベントとして行っているということが見えにくい。市民が読む時に、市はどのような手伝いをしたのか、学生がどういう人と関わっているのか、就職は何人くらいしたのかという質問が出たときにこの評価表から読めないのが不親切。修正版に4市4町が記載されたことにより分かった点もある。丁寧な記載で理解できる。

○千里副委員長

事業名が「学生地域定着自治体連携事業」だが、市民が見たときに最終的に学生が地域にどれだけ定着したのか、対象はどこなのかがうまく伝わらないのではないか。評価表を見たときには江別市に定着することが事業目的と読み取ると思う。これは江別市周辺にある市町も含めて連携しており、大都市に流出しないで地元で定着したか

ということである。この文面だと他市町が協力して江別市に定着させると勘違いしてしまう可能性もあるので注意して記載する必要がある。

また、「意図」でも「学生の地域への就職、定住」とあるが、参加している学生が1年生、2年生と若い学年であるため、今後成果が期待されるのではないか。場合によっては4年生や短大生も参加しているので、何人がどこの地域に就職しているなど出てくると説得力がある評価表になる。

○武岡委員

「自治体連携」という言葉が事業名に入っており、一見しただけではなぜ他の自治体との連携が必要なのか分からなかったが、千里副委員長の話を聞いてようやく理解した。要するに江別市には4つの大学があり、その大学の学生を江別市も含め周辺の市町に就職できるように支援することが「意図」で、就職先は江別市でなくてもよいのか。

○千里副委員長

協議会が割振りを行い派遣するイメージが強い。

○事務局

江別市役所内に協議会を作っており、各自治体に学生をマッチングして派遣する形になっている。江別市にも派遣されることもあり、他の自治体も対象となる。

○武岡委員

江別市は協議会負担金として300万円超の金額を負担しているのか。

○事務局

江別市は協議会負担金として300万円超の金額を負担している。

○武岡委員

江別市内だけではなく、他の周辺の市町に就職するのを支援しているのか。

○事務局

人口割で他市町も負担しているが、江別市の負担分はこの金額である。

○山下委員

その内容を記載していなければ分からない。

先程の「成果指標」に戻るが、「市内の地域活動等に参加した延べ学生数」とは江別市の参加人数で良いのか。

○事務局

「成果指標」については江別市内の参加人数として記載している。

○山下委員

連携することが主だと思うが、連携しつつも最終的に江別市に就職・定着してもらうことが目的で行うのか。

○事務局

江別市に就職・定着してもらうことは目的である。

○山下委員

それならばその部分が分かるように記載してほしい。

小野寺委員から1千万円の費用を使用しているとの意見があったが、500人参加して江別市に就職・定住した人数が少なければ、一人あたりどのくらいの費用がかかっているかという話になる。そこまでお金をかけて行う事業なのかと市民は思うのではないか。費用対効果の意識を持つためにも指標を絡めると良いと思う。

平成27年度から始まった事業なのでこれからでも良いと思うが、その意識を持っていないと金銭を出せば就職・定着するのかという疑問に応えた事業なのかという話になってしまう。

○井上委員長

企画をした段階では4市4町の連携をとって就職をしてもらおうと、そのために行政はどのくらい負担をして、どういう成果を上げるかを練ってスタートしたと思うが、その進捗状況が希望的観測のような気がする。担当課評価(3)「成果動向及び原因分析」には「一定の成果が出ている」とあるが、「一定の成果」とはどのくらいの成果なのか記載してほしい。事業を否定するのではなく、市民に対して説明をすることを踏まえると書き方に工夫が必要だと思う。

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事(1)を説明】

・資料5【修正版】 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表(平成28年度実績)(P17~P18)

事務局から議事(1)のうち「ウェルカム江別事業」を説明

【質疑】

○山下委員

この事業の「意図」が分からない。認知度が上がると市や市民にどのようなメリットがあるのか。認知されなくてもよいのではないか。

○事務局

上位のえべつ未来戦略の戦略4の方向性で「定住人口や交流人口を増加させるには、まず、江別の良さが道内外に広く認知されている必要がある」という考え方に基づいて、事業を進めている。定住人口や交流人口を増加させる前段として、江別市の情報を江別市外の人に触れてもらう機会を増やそうするためにこの事業を行っている。

○山下委員

そうであるならば因果関係を教えて欲しい。認知度・イメージの向上が定住人口や交流人口の増加につながる根拠はなにか。

○事務局

江別市に来てもらうことや住んでもらうには北海道内外の人々に江別市はどこにある街なのか、どのような街なのかを知ってもらわないと難しい。山下委員の指摘のとおり、知ってもらってすぐに来てもらえるわけではないが、まずは江別市の認知度を上げようと始めた事業である。

○山下委員

事業費1千万円を「認知度を上げる」という成果が出るか曖昧なところに使用することはどうなのか。また、この事業はマーケティングではないか。

○事務局

シティプロモートのプロモーション活動なのでマーケティングの1つと考えている。

○山下委員

プロモーションの胆は対象を絞ることであることは分かっていると思うが、事業の対象が誰なのかが分からない。

また、「成果指標」に「パンフレット等配付部数」とあるが、配付しただけ成果が上がるのか。

○事務局

この事業の最終目的は、えべつ未来戦略に掲げている「江別市の全国的な認知度を上げること」である。パンフレットを持ち帰る際は、基本的に一人一部だと考えており、パンフレット等の配付部数が増えるだけ情報に接触した人が増加していると考えている。

この事業には色々な要素があり、うまく説明できていないことが根源の問題となっている。この事業は江別市の定住者を増加させることが大きな目的となっており、その経費として「えべつの時間」という冊子を作成している。ターゲットは江別市に近い札幌市の厚別区・白石区・東区、岩見沢市の保育園・幼稚園に通っている保護者に絞られており、直接届けている。公園やぽこあぽこなどの施設などを記載しており、その印刷経費が大きな部分となっており、輸送費も含まれている。その他にも、EBRIに来た方や、ホームページを閲覧した方なども対象となっており、所管課も絞りきれなく、江別市民以外となると対象が大きくなるため、書き方がミスマッチとなってきている。定住人口という部分では、若い世代で住んでいただくことがメインターゲットとしている。

○山下委員

そのような状態で資料として渡してほしい。

最終的に定住が目的ならば、他の事業と重複するのではないか。事務局より説明のあった認知度ランキングを上げることを目的としているならば、順位を上げることを成果にすることもあっていいのではないか。しかし、個人的には江別市の認知度が上がれば市民にとってどういう効果があるのかが、分からない。認知度ランキングの順位が上がると定住や交流につながっていくという部分については肯くことはある。その部分を記載していないと、パンフレットの作成・配付をしたからというだけでは説得力に欠けるのではないか。

○小野寺委員

「事業を取り巻く環境変化」について、インターネットでの情報発信が可能となっているという内容の記載があるが、インターネットでの宣伝は費用をかけなくても出

来る媒体なのではないか。しかし、担当課評価（５）「効率性」では「認知度の向上が優先となるためPR経費の削減は難しい」とあり、環境変化はあるが、費用の見直しはしている、との関係性が分からない。

また、「指標・事業費の推移」では平成28年度から平成29年度の実績にかけて事業費が倍以上となっているが、その流れがこの記載では分からない。費用が倍以上かかっているが、削減の余地が難しい理由はどういったことなのか。

マーケティングでターゲットが誰なのかという話があったが、「意図」に「江別市に対する認知度、関心度向上され」と記載があり、江別市はどのようなイメージを持ってもらいたいかを記載してほしい。そうすると、どういうターゲットでどのようなイメージ作りに費用が使用されているかが分かりやすい。

○井上委員長

「活動指標」が「パンフレット等作成部数」とあるが、担当課評価（４）「成果向上余地」に「アンケート用紙を添付し、読者から感想や意見を収集」と記載するのならば、アンケートの戻ってきた数がどのくらいだったのかが数値化できる。

目的は、江別市の人口増を図るため、子育て世代の転入促進策として色々なパンフレットを作成・配付し、その反響・効果をアンケートなどから分析し成果に繋げていく。そのような発想は是非広報に持っていただきたい。江別市の広報誌は外部の評価も高い。無駄なく、対象に照準を合わせた広報のあり方を「事業を取り巻く環境の変化」に入れてほしい。

○千里副委員長

小野寺委員から指摘があった事業費について、市民が見たときに気になる内容なので、分かる範囲で理由を教えてください。

事業の対象が江別市外の方が対象になっているが、江別市民や市内の大学生などもパンフレットを見ている。

○事務局

平成29年度の予算は、今回の評価対象ではないが、主な費用として、江別市をPRするために北海道情報大学にてプロジェクションマッピングを行う予定となっており、専用のプロジェクターを3台購入する費用の一部を補助するために金額が上がっている。

○井上委員長

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（１）を説明】

・資料5【修正版】 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）（P19～P20）

事務局から議事（１）のうち「ふるさと納税普及促進事業」を説明

【質疑】

○井上委員長

江別市はふるさと納税よりも、それをきっかけにPRを行いたいのか、納税額を増やしたいのか、どちらなのか。

○事務局

江別市はPRして認知を上げることを第一目的、ふるさと納税を増やすことを第二目的として考えている。

○井上委員長

納税が優先になると読み取り方が変わってくると思う。

○小原委員

「ふるさと納税者数」は増加しているが、納税額がどうなっているかが評価表に記載がなく、こちらはどうなっているのか。

○事務局

「成果指標」に納税額の記載がないということだが、えべつ未来戦略の中でシティプロモートを優先、目的としているので、金額を増やすことを優先していないため、今回は「成果指標」にはしていない。

○山下委員

「意図」の記載が抽象的で何が目的か分からないため、具体的に記載してほしい。事業費がかかるとしても江別市の認知度を上げる価値があるということが分かれば良いが、納税額が書かれていない理由がわからない。納税額が目的ではないかもしれないが、コストパフォーマンスがわからない。コストは分かるが、その金額をかけて納税額が分からないと、市や市民にどういうメリットがあるかが分からない。事業費をかける目的を明確に記載していないために同じような質問が出てくる。

なぜ「活動指標」が「ふるさと納税」関連ウェブサイトへのアクセス件数になっているのか理由が分からない。「活動指標」の定義と一致しないのではないか。

○事務局

ふるさと納税はウェブサイトのみでの受付ではないので、これだけをもって「活動指標」とするのは一致していない。

○山下委員

前提として「活動指標」にする内容なのか。「手段」には「贈呈する・PRを行う・活動事業を報告する」と記載があるが、なぜこういった活動内容が「活動指標」に出ていないなのか。

○井上委員長

所管課は市民に何を伝えたいのかを検討して、見直しをお願いしたい。

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（１）を説明】

- ・資料５【修正版】 えべつ未来戦略 戦略１・４ 事務事業評価表（平成２８年度実績）（Ｐ２１～Ｐ２２）

事務局から議事（１）のうち「えべつシティプロモーション事業」を説明

【質疑】

○山下委員

「意図」について「認知度、イメージを向上させる」と記載があるが、理由が分からない。担当課評価（２）「上位貢献度」に「観光振興、産業振興、定住促進」とあるが、このような曖昧なことに事業費を使うのか。具体的にコストパフォーマンスが分かるように記載してほしい。事業費を使い、どのくらい利益があったかの記載がないとなんとなく事業を行っているように感じる。

複数箇所に「少子高齢化」と記載があるが、全国・他市と比較して江別市の高齢化率は高いのか。全国・北海道内と江別市を比較して分かるようにしてほしい。江別市の高齢化が特別進んでいるのかが分からない。

○小野寺委員

「活動指標」にある「推進プロジェクト等の活動回数」とは推進組織の会議の回数なのか。具体的な記載がなく分からない。

○事務局

会議やイベントで行うＰＲ活動が含まれた回数である。

○小野寺委員

ロコミなどのＰＲ活動を行うことが目的だったので、会議の回数が含まれているならば、実際にＰＲ活動を実施した回数を記載した方が分かりやすい。

「事業内容（主なもの）」について、「推進プロジェクト実践活動」とあるが、内容が分からないので分かりやすく記載してほしい。

○事務局

「事業内容（主なもの）」については、分かりにくい面があるので見直しを考える。

○井上委員長

ＰＲしたい思いは理解できるが、イメージが曖昧なので具体化する時に軸を作ることが大切だと思う。

「事業内容（主なもの）」に「江別市ＰＲワッペン・バッヂ作成（主に全道、全国大会に出場する江別市のスポーツ選手が着用）」とあるが、江別市はスポーツ選手の活躍度が高い。そうであれば、「えべつシティプロモーション事業」としてスポーツ選手をとおしてイメージアップをするなど、市民が想像できるような具体性があるように記載してほしい。

○事務局

山下委員からの指摘にあるように、えべつ未来戦略を始める段階に、江別市は北海道内で人口９位、認知度２０位であり、人口規模に対し認知度が全国的に高くない結

果であった。北海道外に行く際に江別市がどこにあり、どんな街かを知ってもらいたいという思いから出た戦略を事業化したという経過がある。認知度の向上を目指してその先となると、抽象的になってしまっている背景があると考えている。

○山下委員

他市でもある傾向だが、順位が出た場合は、そのままでいいのではないか。順位を上げることは「手段」であり、その「目的」は何なのか。なぜ順位を上げるのか、順位を上げることによってどのようなコストパフォーマンスのメリットがあるかが分からないと、事業費だけがかかっていることを危惧する事業になる。何のためにプロモーションをするのか、順位を上げるのか理由が分からない。順位が上がった方が良いとは思いますが、他に費用を使用するところがあるのではないかとと思う。

○井上委員長

ソフトとハードがあり、ソフトはイメージで曖昧なものであり、自然に作られているが、その元となる部分は何なのか。目的をもって記載すると内容や指標も変わるように思う。市民が読んだときに事業内容が分かる評価表にするために、文言を整理して記載してほしい。

(2) 平成29年度行政評価外部評価委員会におけるヒアリング事業の選定

- ・資料1 平成29年度行政評価外部評価委員会意見要旨
- ・資料2 平成29年度江別市行政評価外部評価委員会ヒアリング実施事業
～えべつ未来戦略における戦略1・戦略4構成事務事業一覧～

○井上委員長

「資料2」を参考にしながらご意見をいただきたい。

まずは、ヒアリング事業の希望等について、ご意見のある委員は発言願う。

総事業費、評価表の記載方法、「成果指標」の捉え方などについて色々な視点があると思う。

1つを選ぶとしたら小野寺委員はどの事業を選ぶか。

○小野寺委員

「ウェルカム江別事業」にて、プロジェクションマッピングのプロジェクターを3台購入する経緯を確認したい。

○井上委員長

小原委員の意見はどうか。

○小原委員

何事業くらいヒアリングは可能なのか。

○井上委員長

今年度は11事業あり、昨年度は5事業ほどヒアリングを行った。

○小原委員

「ふるさと納税普及促進事業」についてヒアリングを行いたい。地場産業の育成と

江別市の認知度を上げること、ふるさと納税で大きくなった財源で市により良いものを作れる可能性が制度であるが、不明瞭である。

○井上委員長

山下委員の意見はどうか。

○山下委員

えべつ未来戦略の戦略1と戦略4の「成果指標」は何なのか。

○事務局

戦略1については、「協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合」「協働のまちづくりに参加している（したことがある）市民割合」「大学及び学生等との連携事業数」と3つあり、戦略4については、「江別市の認知度の道内順位」「江別市の情報発信力が高いと思う市民割合」の2つとなっている。

○山下委員

事務局の説明があった「成果」が進むことがどう生かされるかが分からない。協働やまちづくりへの参加が進むことや大学が連携して江別がどうなるのか。事業費をどのくらい使い、どのくらい江別市のメリットがあるか具体的に分からない。「成果指標」がどのような「目的」であるのかが分からないため、評価表も良く分からない。

そのため選ぶことが難しいが、コストパフォーマンスが気になるので、コストがかかっているものとして「市民協働推進事業」「大学連携調査研究助成事業」「学生地域定着自治体連携事業」「ふるさと納税普及促進事業」「えべつシティプロモート事業」について、この事業費をかけてどのような見返りがあるかを聞きたい。

○井上委員長

「市民協働推進事業」について協働と言っているが市民を交えて何を実施するのか、補助金を出せばよいと読めてしまうのが、気になる。

千里副委員長の意見はどうか。

○千里副委員長

今回の戦略1に関しては、関わっている事業が多いため、戦略4「えべつシティプロモーション事業」など関わっていない事業が聞きたい。

えべつ未来戦略を作る前段階のえべつ市民未来会議にも参加していたが、情報がうまく伝わっていないなど、情報発信についての意見が多く出ていた。

○井上委員長

それでは、この場では決定せず、武岡委員と菅原委員の意見も聞き、時間も含めて事務局と調整する。

次回まで時間もあるので第1案を各委員に連絡をし、その際にヒアリングしてほしい事業がある場合は連絡がほしい。

3 その他

○井上委員長

では、3その他について、事務局から何か事務連絡等はあるか。

【事務連絡】

- ・ 第3回及び第4回委員会日程の確認

4 閉会